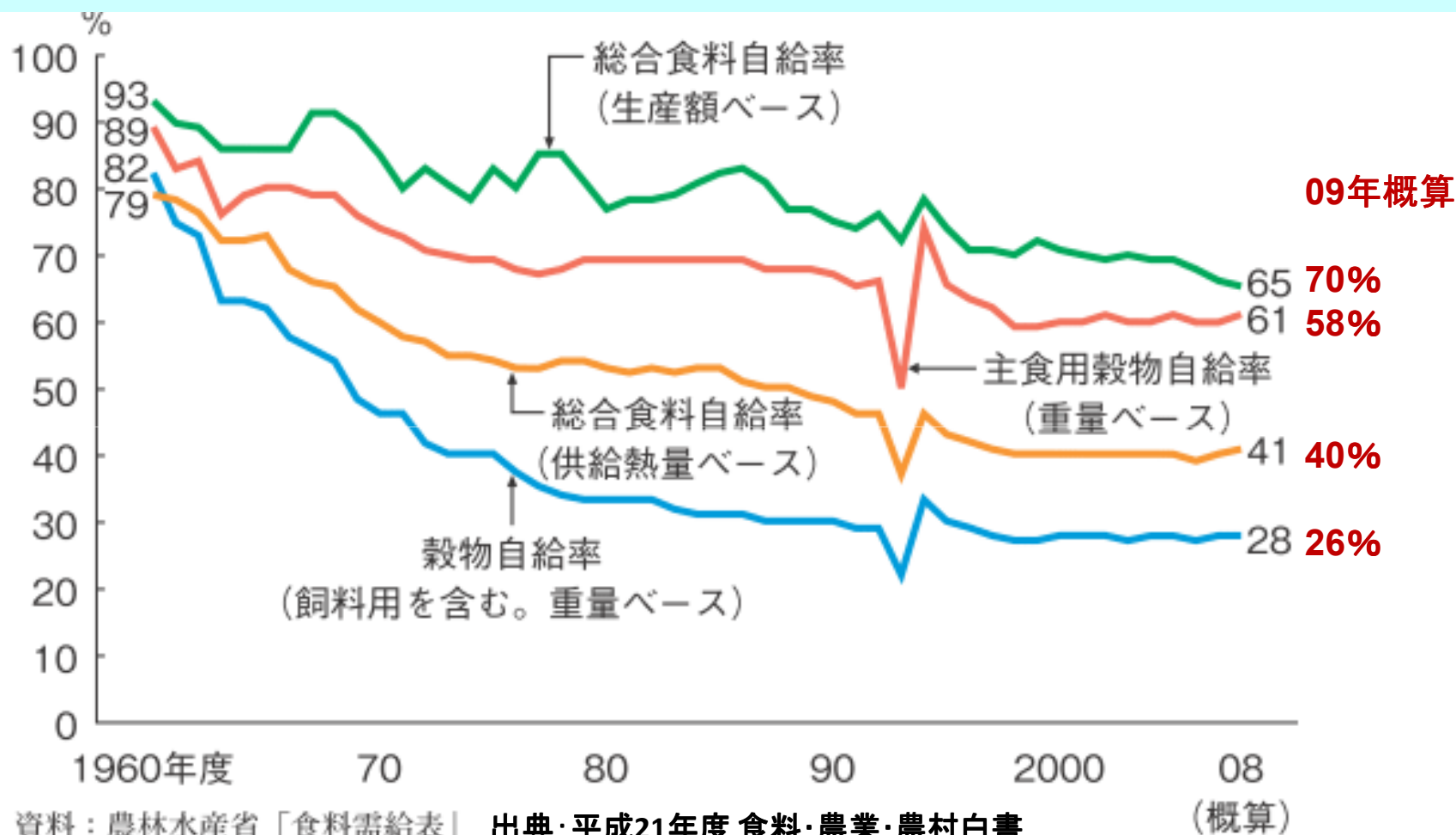
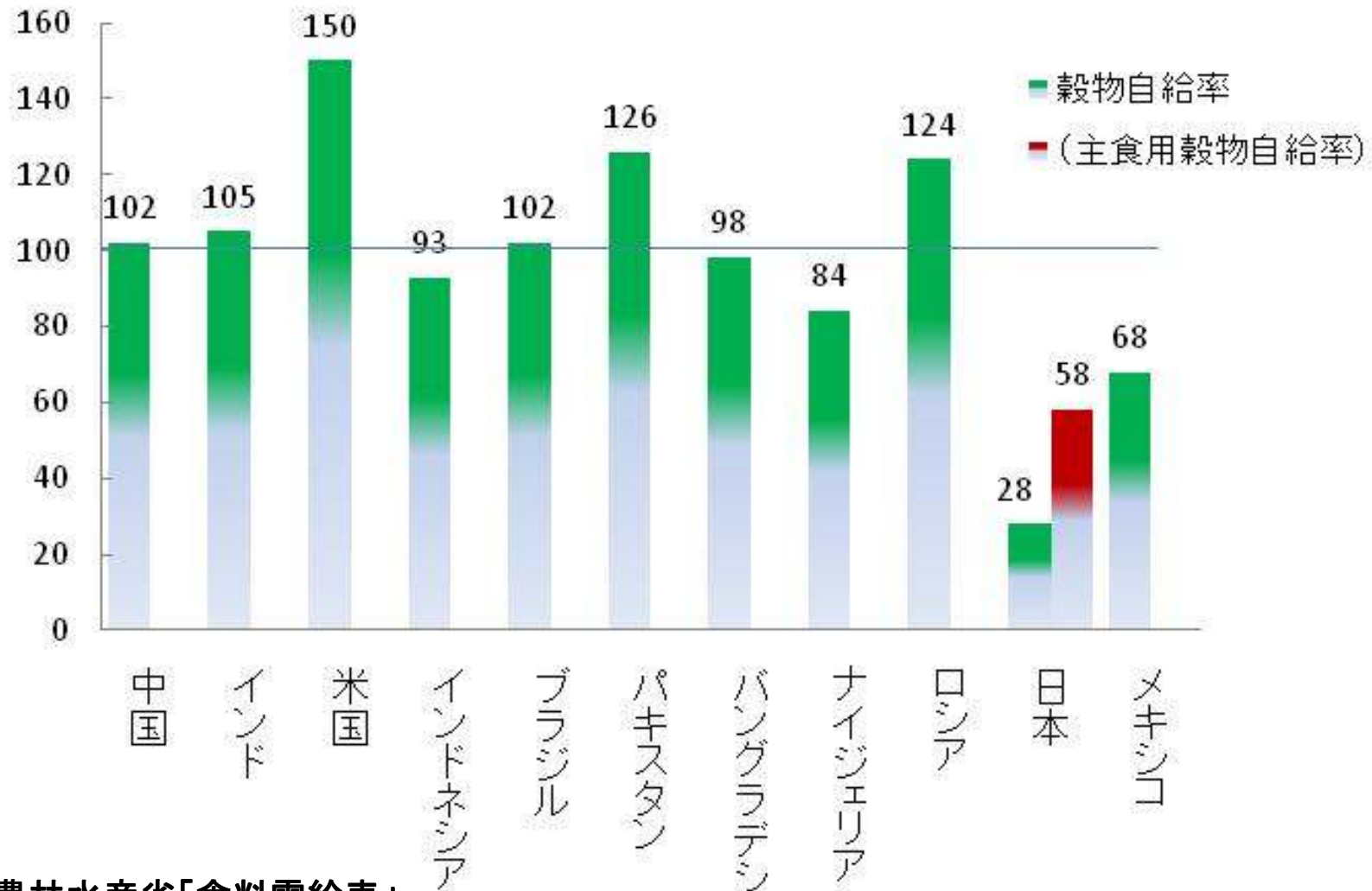


「大嘘だらけの食料自給率」？



生命を支えるのは、食料の重さでも値段でもなく、栄養(エネルギー)。
自給率はカロリーベースだけではなく、金額ベース等の指標も活用。
穀物自給率は、カロリーベースより低い水準。

穀物自給率の国際比較(人口1億人以上の国)

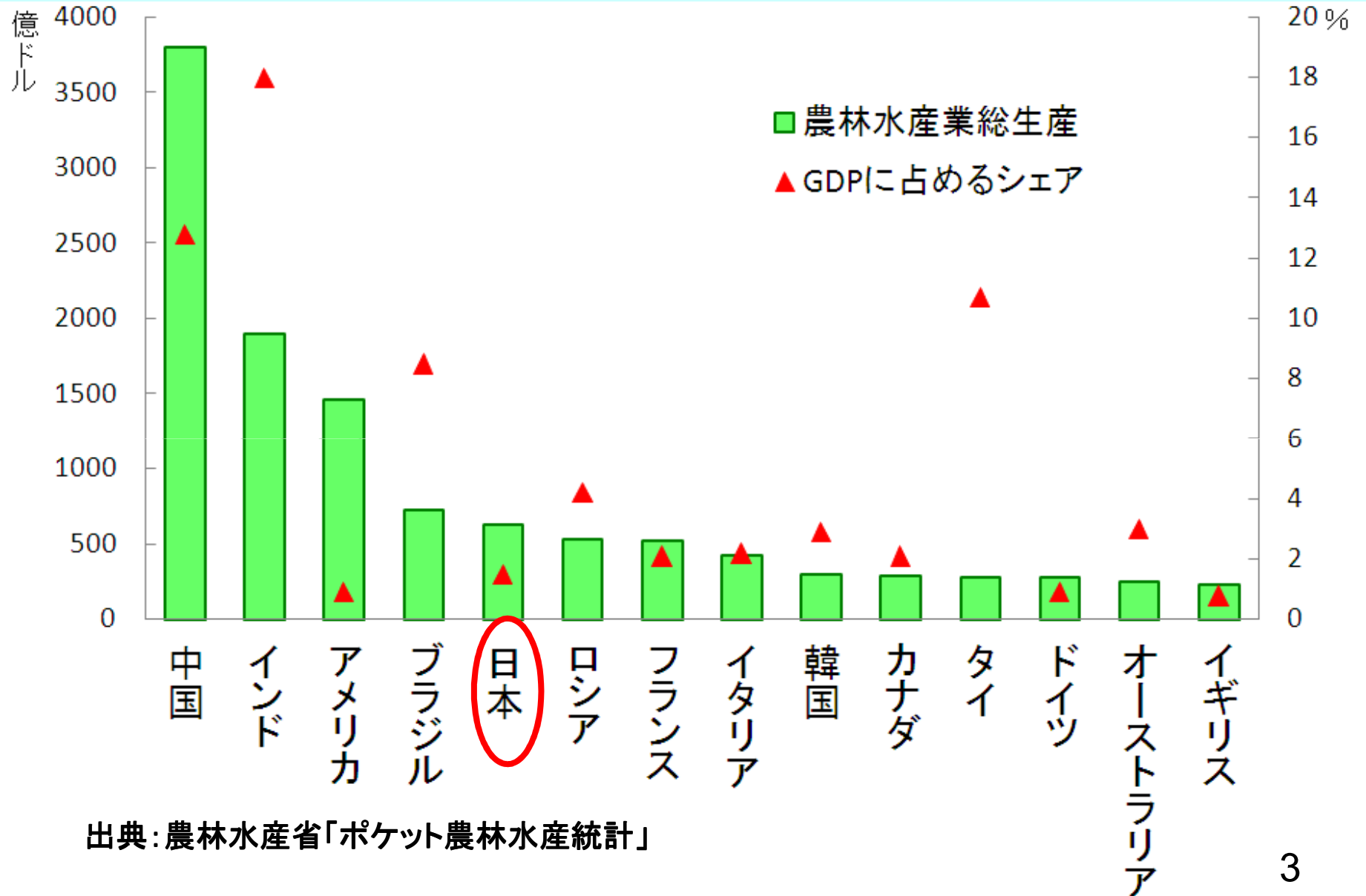


出典:農林水産省「食料需給表」

注:日本の穀物自給率は、177の国・地域中124番目、OECD加盟30か国中27番目。

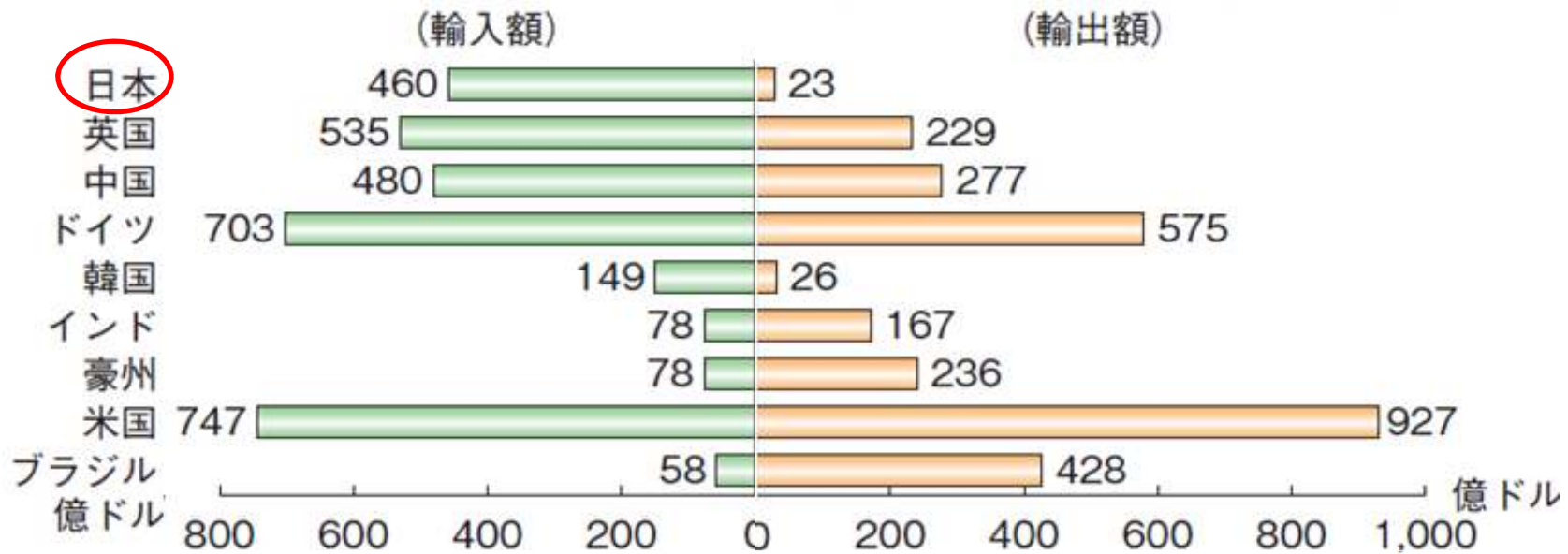
日本の穀物自給率は、飼料を除いても、途上国を含む諸外国に比べ極めて低い水準。 2

「日本は世界第5位の農業大国」？



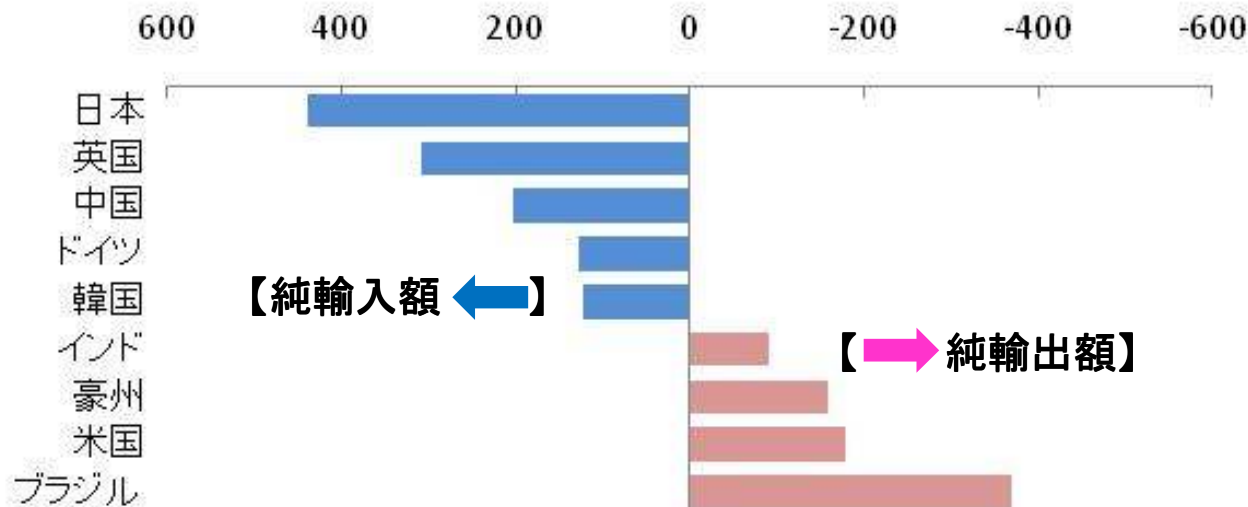
先進国の場合GDPに占める農林水産業のシェアは1～2%程度。日本のGDPは世界第2位。

「世界最大の食料輸入国」の嘘？



資料：FAO「FAOSTAT」を基に農林水産省で作成
注：EU加盟国の輸出額、輸入額は域内貿易を含む。

出典：平成21年度 食料・農業・農村白書



日本の農産物貿易は、輸入に比べ輸出がほとんどないという、いびつな構造。

自由化は日本農業の体質強化につながる？

1戸当たりの経営耕地面積の展望

	平成2年	7年	12年	17年	21年	32年 (展望)
販売農家*1	1.4ha	1.5ha	1.6ha	1.8ha	1.9ha	2.6ha
増加率(年率)		(1.2%)	(1.3%)	(1.9%)	(2.7%)	
主業農家*2	—	3.2ha	3.9ha	4.4ha	5.1ha	7.7ha
増加率(年率)		—	(3.9%)	(4.4%)	(5.1%)	

(参考) 諸外国との比較

	日本 (平成21年)	米国 (19年)	EU(27) (19年)	豪州 (19年)			
				ドイツ	フランス	イギリス	
農家一戸当たりの農地面積(ha)	1.9	198.1	13.5	45.7	55.8	58.8	3023.7

*1 経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が年間50万円以上の農家

*2 農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家

出典: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」、「農林業センサス」、「農業構造動態調査」、USDA「2008 Agricultural Statistics」、EU「Agriculture in the European Union Statistical and Economic Information 2008」、豪州「Australian Commodity Statistics 2009」

資料: 国家戦略室「包括的経済連携に関する資料」(2010.10.27)より

日本農業の規模拡大は進みつつあるものの、土地面積では外国と比べると大きな格差。

FTA(自由貿易協定)における農産品の自由化率(関税品目数、%)

FTA	輸入国	輸出国	10年以内	10年後	除外	合計
NAFTA	米国	メキシコ	97.0	3.0	0.0	100.0
	メキシコ	米国	90.6	1.8	7.6	100.0
米国・豪州	米国	豪州	53.3	26.3	20.4	100.0
	豪州	米国	100.0	0.0	0.0	100.0
EU・メキシコ	EU	メキシコ	59.3	0.0	40.7	100.0
	メキシコ	EU	67.9	0.0	32.1	100.0
日本・シンガポール	日本	シンガポール	39.4	0.0	60.6	100.0
日本・メキシコ	日本	メキシコ	51.9	7.7	40.4	100.0

米豪FTAでは、米国は豪州からの輸入のうち20%を自由化の除外に。NAFTAにおいてはメキシコ輸入については全ての商品を自由化の対象。米国の農産品の競争力は、豪州に対しては不利、メキシコに対しては有利な状況にあることが分かる。

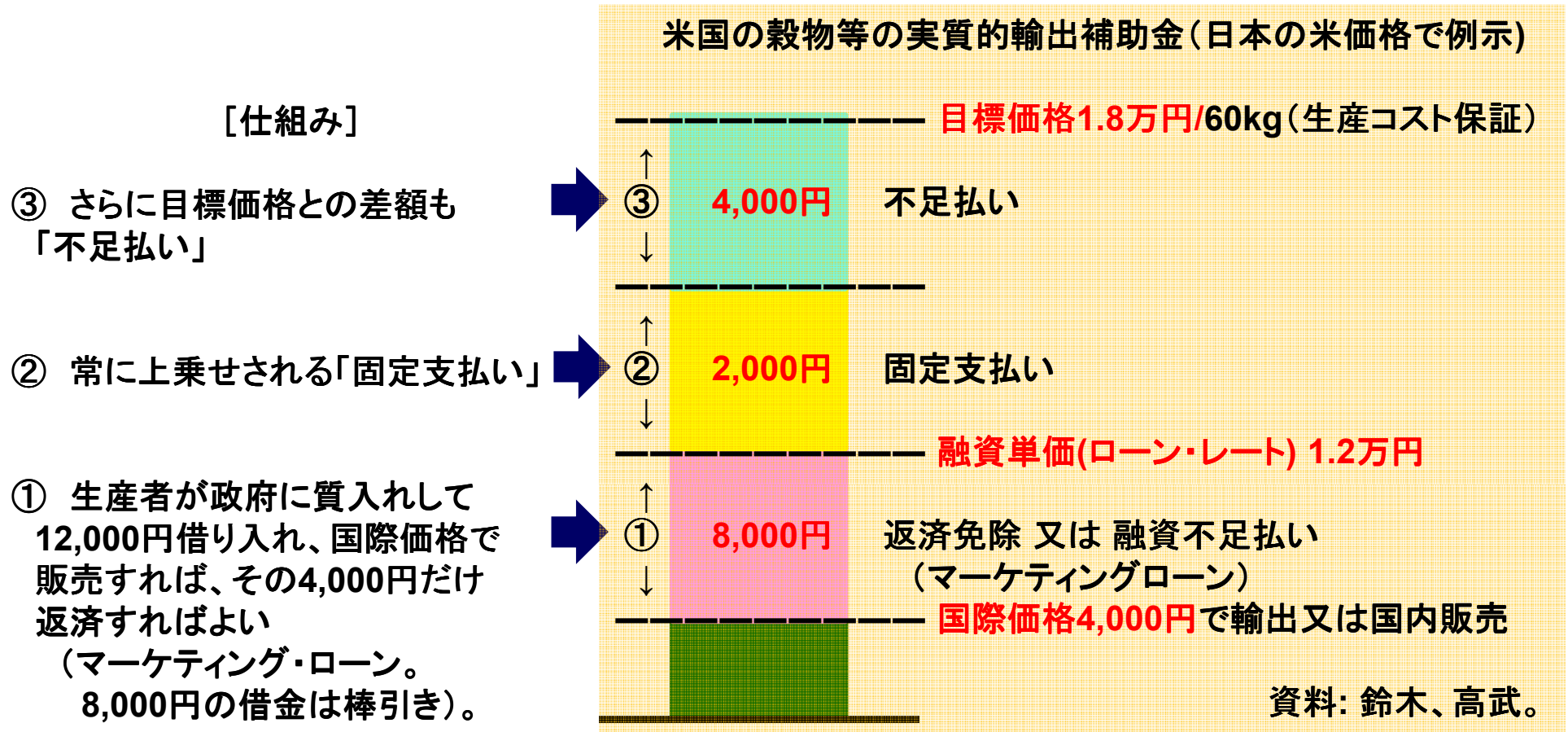
出典：浦田、安藤「自由貿易協定(FTA)の経済的効果に関する研究」(経済産業研究所、2010.12)
表1、p.4~5から抜すい。

注：米豪FTAにおける例外的取扱

- ・関税を即時撤廃しない品目：[18年]牛肉、[10年]ネギ、ほうれん草、葉たばこ、アボガド等
- ・関税撤廃をしない品目：砂糖、一部乳製品(ブルーチーズ等)
- ・セーフガード措置：牛肉輸入量が110%を超えると価格に関わらず発動。

アメリカは、競争力のある国とのFTAでは、関税撤廃をしていない。

アメリカ農業の「攻撃的な保護」



安く売っても所得補填があるので、どんどん増産し海外に安く販売(はけ口)。
「攻撃的な保護」(荏開津1987)

豊かな未来の食に向けて、 今、私たちが考えなければならないこと

1 世界の食料需給は逼迫基調

- (1) 需要面
 - ① 中国、インド等中進国の経済発展（畜産物需要の急増）
 - ② バイオ燃料（食料と燃料が競合）
- (2) 供給面
 - ① 砂漠化、水資源の逼迫
 - ② 気候変動（毎年のように天候不順）

2 世界の飢餓人口：9億2500万人

3 環境問題との関わり

- ・ 食品廃棄、ロス（台所ごみの約4割は食べ残し、手つかず）
- ・ 有機農業（地域の環境に負荷を与えない農業生産）、生物多様性
- ・ 仮想水、フード・マイレージ（地球規模の資源・環境に対する負荷）

4 地域社会、コミュニティの維持・再生

- ・ 限界集落
- ・ フードデザート（食の砂漠）

さて、明日は何を食べましょうか。